

地域を支え、未来の子どもを支える、ゆめみ～る

對馬 敬子 (つしま けいこ)
特定非営利活動法人 ゆめみ～る 理事長 (右)

山田 正幸 (やまだ まさゆき)
特定非営利活動法人 ゆめみ～る 副理事長・事務局長 (左)



農山漁村における地域の活性化や、個性的で魅力ある地域づくりの優れた活動を紹介するシリーズ。

今回は「わが村は美しくー北海道」運動第7回コンクールで優秀賞を受賞した団体、「特定非営利活動法人ゆめみ～る」理事長の對馬敬子さんと副理事長の山田正幸さんにお話をお伺いしました。

《設立は福祉のまちづくりを目指して》

登別市は、北海道の太平洋に位置し、西から^{わしべつ}鷺別、胆振幌別川河口の幌別、登別温泉を中心とする登別の各地区で市街地を形成しています。なかでも鉄南は、登別発祥の地で古くから住む住民も多く住民同士の協力体制が強い地区です。ですが少子高齢化が進み人口は1981年をピークに約1,900人まで減少し、地域の衰退にもつながる問題を抱えていました。

2005年、市民主体の福祉のまちづくりを目指して、行政だけでは解決しにくい地域の生活課題のため「第1期登別市地域福祉実践計画「きずな」」が策定されました。問題解決の糸口として、8つの地区でアンケートや住民座談会を実施し地域の声を集め検討がなされました。私たちの暮らす鉄南地区に「高齢者が集まれる『居場所』」をつくろうと、2008年11月「NPO法人ゆめみ～る」を設立し活動をスタートしました。



「かえる食堂（子ども食堂）」は毎月第2、第4日曜日開催

《地域の声に応えた活動》

当初の活動内容は、「地域食堂」「配食事業」「朝市」。地域食堂は、手打ちそばがメインで、今では地域以外のお客さんがそばを目当てに来店します。配食事業では、安否確認や見守り活動の役割を担い離れて暮らす家族にも感謝されています。毎週土曜に開催する朝市は、買い物に行けない高齢者を送迎し憩いの場となっています。

はじめは地域の高齢者に目を向けた福祉的な役割を担う活動でしたが、2019年からは、食支援活動の新たな展開として「かえる食堂（子ども食堂）」「フードバンク」「パンのパントリー」を開始。登別・室蘭のコンビニや郵便局に食材回収boxを設置。胆振管内の企業や事業者から寄贈された食材を、ひとり親のお母さんやお父さん、生活困窮者の世帯に無償提供する支援活動をしています。

2011年からは、学校の授業が終わった後の子どもの居場所として「放課後児童クラブ」「放課後子ども教室」など地域の声に耳を傾けることで、活動内容も増えていきました。今年で15周年を迎えた「ゆめみ～る」ですが、そのすべての活動は、地域の元気な高齢者のボランティアスタッフで運営されています。

食堂裏にある畑では、小学児童に野菜の苗植えから収穫をする「ゆめみ～る農業」を実施。「子どもたちが、農作業を通じて作物を作る大変さと喜びを知ってもらいたい」と副理事長の山田さんは言います。

最後に理事長の對馬さんは「現在、幌別、登別、鷺別にある「かえる食堂」の活動を胆振地域全体に広げ、多くの皆さんの生活が明るくなってもらえれば」と、優しい笑顔で思いを語ってくれました。

※ 当協会ホームページ、開発調査総合研究所・調査研究報告書から「わが村は美しくー北海道」運動第1～9回受賞団体の活動概要をまとめた冊子をご覧ください。